

タディ・ブラズジアク、世界一ハードな「エルズベルグロデオ・レッドブル・ヘアスクランブル」で4連続優勝！ 田中太一も驚異の追い上げを見せ13位で完走

ERZBERODEO XVI Red Bull Hare Scramble / 2010年6月6日・オーストリア・アイゼンナーツ



4連続優勝をKTMと自分にもたらしたタディ・ブラズジアク

6月3日～6日、オーストリア・アイゼンナーツで開催された第16回エルズベルグロデオ。そのメインイベントである「レッドブルヘアスクランブル」で、KTM250EXCを駆るポーランド出身のタディ・ブラズジアク(27歳)が、2007年からの4連続となる優勝をKTMにもたらした。世界でも最も過酷と言われる大会での優勝であり、まさに偉大！ のひとことだ。

プロローグ(予選)を2位で終えたタディ・ブラズジアクだったが、決勝ではよいスタートを切ることができた。しかし、すべてが順調というわけではなく、32kmの過酷なコースではミスもトラブルも。一時は6位にまで落ちてしまったが再び抜き直し、2位のアンドレアス・リッテンビッヒラー(BMW)に11分もの大差をつけ「アイアン・ジャイアント」の頂点に立った。3位は7年連続でトライアル世界チャンピオンとなったドギー・ランブキン(BETA)。そうそうたる強豪を押しよけての優勝となった。



タディ・ブラズジアク

アメリカから初参戦したカート・キャッセリはKTM300EXCを駆って8位でフィニッシュ。南アフリカからKTMサウスアフリカのサポートを受けて参戦したダリル・カーティスも10位でフィニッシュ。同じく初参戦となった日本の田中太一も力強い走りで完走した。田中は予選で失敗し、5列目というこれまで完走例がないほど後方のスタートから記録的な追い上げを見せて13位でフィニッシュした。

1795人が予選に臨み、500人が勝ち残った決勝で、制限時間である4時間以内に完走できたのはわずかに15人。そのうち7人がKTMライダーだった。

観客数3万人、過去最大規模となったエルズベルグロデオ。タフすぎるほどタフなこの「レッドブル・ヘアスクランブル」にチャレンジした全てのライダーに心からおめでとうと伝えたい。

タディ・ブラズジアク

「なんでこんなにハードな大会で4回も勝てたのか、自分でもわからないよ。コースディレクターのカールが作ったコースは、これまで走ったことのないキツさだった。アドバンテージをかせいでからは体力を節約して走ることができたので、それが結果につながったのだと思う。表には出ないKTMチームのしっかりしたサポートがなかったら、きっと出来なかったことだと思う」



タディ・ブラズジアク



タディ・ブラズジアク



ダリル・カーティス

全日本エンデューロ選手権で KTM 250EXC-F を駆る田中太一も参戦 初参戦にして 13 位完走



2010年から全日本エンデューロ選手権にKTM250EXC-Fで参戦しているトライアルライダー、田中太一がKTMの協力を得てエルズベルグロデオに初参戦。世界選手権トライアルで磨いたテクニックを生かし、初参戦ながら見事13位完走という快挙を達成！

田中太一

「エルズベルグロデオには予選となるプロローグランが2日間あり、計2回走ります。前日に下見は出来たんですが、オーバー100km/h、140～150km/hも速度が出るので感覚が狂い、初日はミスコース。2日目は攻め過ぎてしまってラインを間違っクラッシュ。チャンバー、ハンドルを破損してしまって230番台という散々な結果になってしまいました。本番は50台づつが1列になって順番にスタートするのですが、5列目のスタートになってしまったので、1列目がスタートしてから20分くらいもスタート地点で待たされてしまって焦りましたね。そのあとも、ウッズのなかで渋滞に並ばざるを得ないシーンが多く、10分以上も止まったままになってしまって正直完走は厳しいかな、と思ったほどです。しかし、比較的前半で35位くらいまで上がり、そのあとロックセクションで10台づつくらい抜けるシーンが続いてなんとか完走できました。KTMのスタッフはもちろん、他メーカーのみんなも応援してくれて凄く助かりました。嬉しかったですね。」



田中太一

1982年2月3日生まれ
TR IB 全日本チャンピオン / 00～02 世界 TR ジュニアカップ 2位 / 02 世界 TR ランキング 13位 最高位 4位 / 05 全日本 TR SA ランキング 2位 / 09 JNCC 池ノ平 6位 / 10 G-IMPACT 優勝 (賞典外) / 10 JNCC Rnd.1 3位



プロローグ

「KTMのサポートは完璧でした。練習のときから、クリスというメカニックが完全にサポートしてくれて、アドバイスもたくさんしてくれました。パドックでのホスピタリティも完璧だし、KTMに乗っていればいいことがあるなあ、と実感した大会でした。マシンはKTM300EXCで、セル付きです。セルがあったことにも助かりましたね。マシンのセッティングもKTMのメカニックがサスを調整してくれたりしたので、本当ラクでした。」



ジョバンニ・サラと

「コースは正直、さほど難しいとは思いませんでした。日本で見ていた映像ほどではなく、トライアル経験のある僕にとってはもっといける、という感触がもてる大会でした。ただし、日本のエクストリームテストとは違って、1mくらいの高さのステアをエンデューロバイクで越えられるテクニックがないと、まったく前に進めないところもあると思います。」



5 列目からのスタートでの完走は記録的な出来事となった

「今回は3200人のエントリーがあって、それを絞って1800台の出走に絞ったそうです。エルズベルグロデオも最初は300台程度のエントリーだったそうですが、今では観客も含めると3万人もの人がこの鉱山に集まる一大イベントになっていて、本当感激しましたね。WRCドライバーのキミ・ライコネンが普通にそこにいたりとか……とにかく熱いイベントでした。」

「優勝したタディ・ブラズジアクは、昔は一緒のアパートに住んでいたこともある仲なので、一緒に食事をしたりして楽しく過ごしました。しかし、やはり世界は凄いです。日本ではよく、うまくなってから世界へ……などと言いますが、それは間違いです。まず世界へ行くべきです。それを実感した大会でした。来年は、おそらく5、6位くらいは行けると思います。ランプキンより上に行くのは難しいかな？ とも思いますが、上位に入れる自信があります。ご協力をいただいた皆さん、本当にありがとうございました！」

この件に関するお問い合わせ

KTM JAPAN 株式会社 担当：セールス&マーケティングディビジョン 上条美和

〒153-0051 135-0063 東京都江東区有明 3-5-7 TOC 有明ウエストタワー 9F

☎03-3527-8885 ☎03-3527-8890 HP:<http://www.ktm-japan.co.jp/>

このプレスリリースを掲載いただき、お客様からの問い合わせ先を記載する場合は「KTM JAPAN 株式会社 TEL:03-3527-8885」と記載をお願いいたします。